

第20期考古学セミナー

—古代から近世の木簡と木製品—

講義2

大在家遺跡の木製品と文字資料

井田 秀和 氏

平成30年9月30日（日）

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

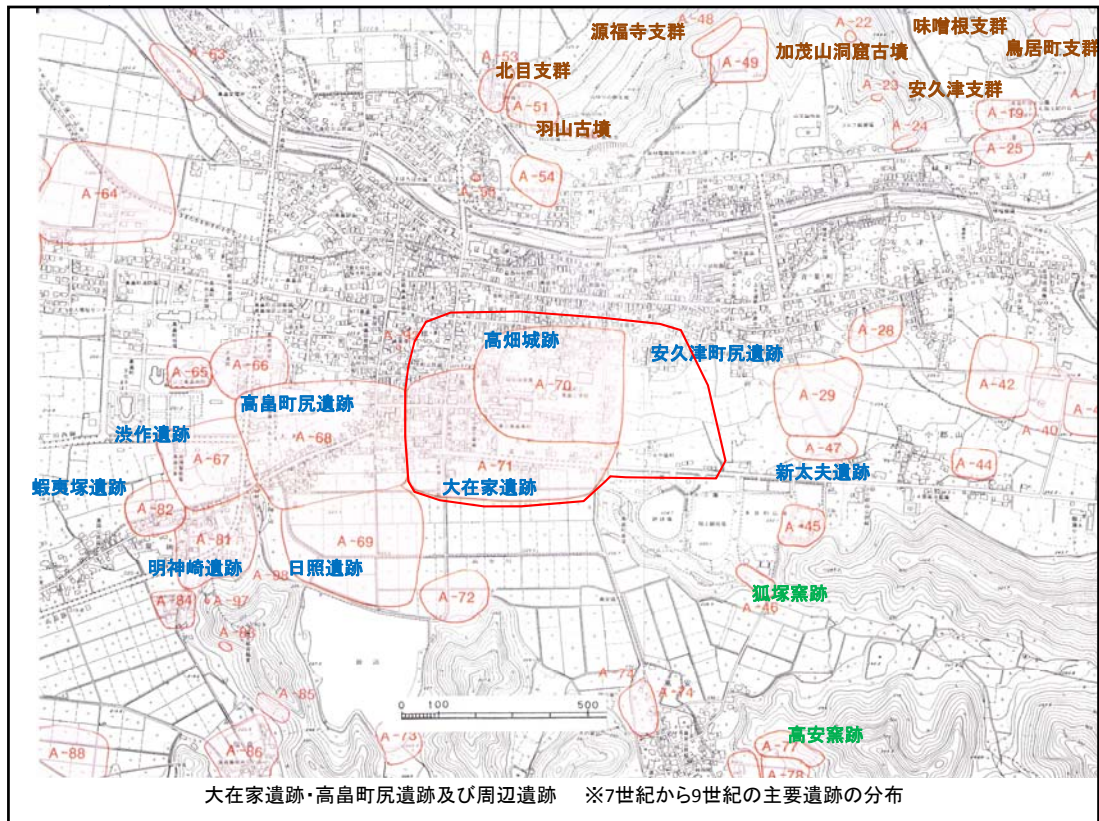
大在家遺跡・高畠町尻遺跡の木製品と文字資料



井田秀和（元高畠町教育委員会）



<高畠町中心部航空写真>



大在家(ダ イ ン)遺跡の概要

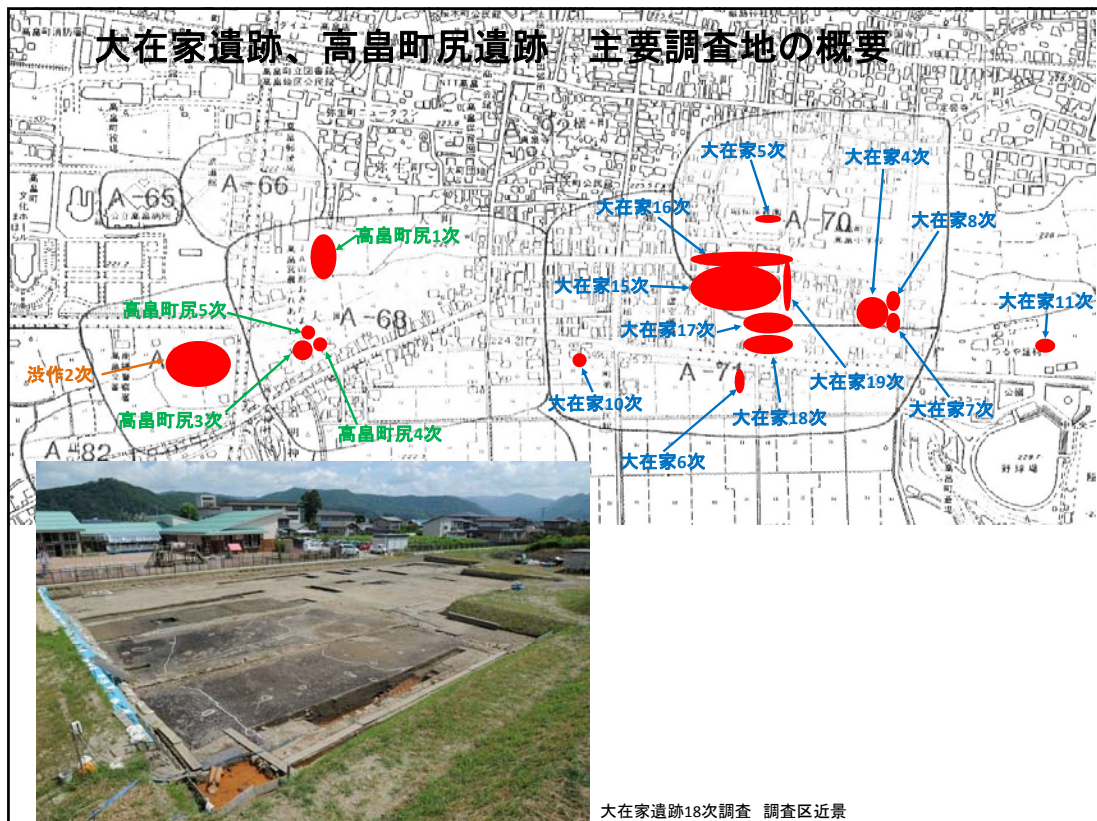
- ◆ 高島町の中心部、元高島高校、高島小学校を中心とする周辺地区に所在
※遺跡の過半数で高畑城跡(中・近世)及び近世・近代の町屋遺跡と重複する
- ◆ 平成3年、農機具倉庫建設に際し、重機による作業時に発見
※それ以前にも高島高校グラウンド造成時や、貯水用池造成時に須恵器や土師器が出土することが知られていた
- ◆ 平成3年から平成24年まで、19次にわたり調査を実施
 - ・遺跡の年代は7世紀後半から9世紀後半
 - ・検出された古代の遺構
 - 縦穴住居跡10棟(7C後半～末:2棟、7C末～8C初:2棟、8C前半:3棟など)
 - 掘立柱建物跡7棟(8C後半～末主体か)、
 - 井戸跡1基(8C末)
 - 土壇、溝跡、河川跡、ピット等
 - ・出土した古代の遺物
 - 須恵器・土師器、土製品、木製品、金属製品、石製品など
 - 極めて多量であり、また多岐にわたる

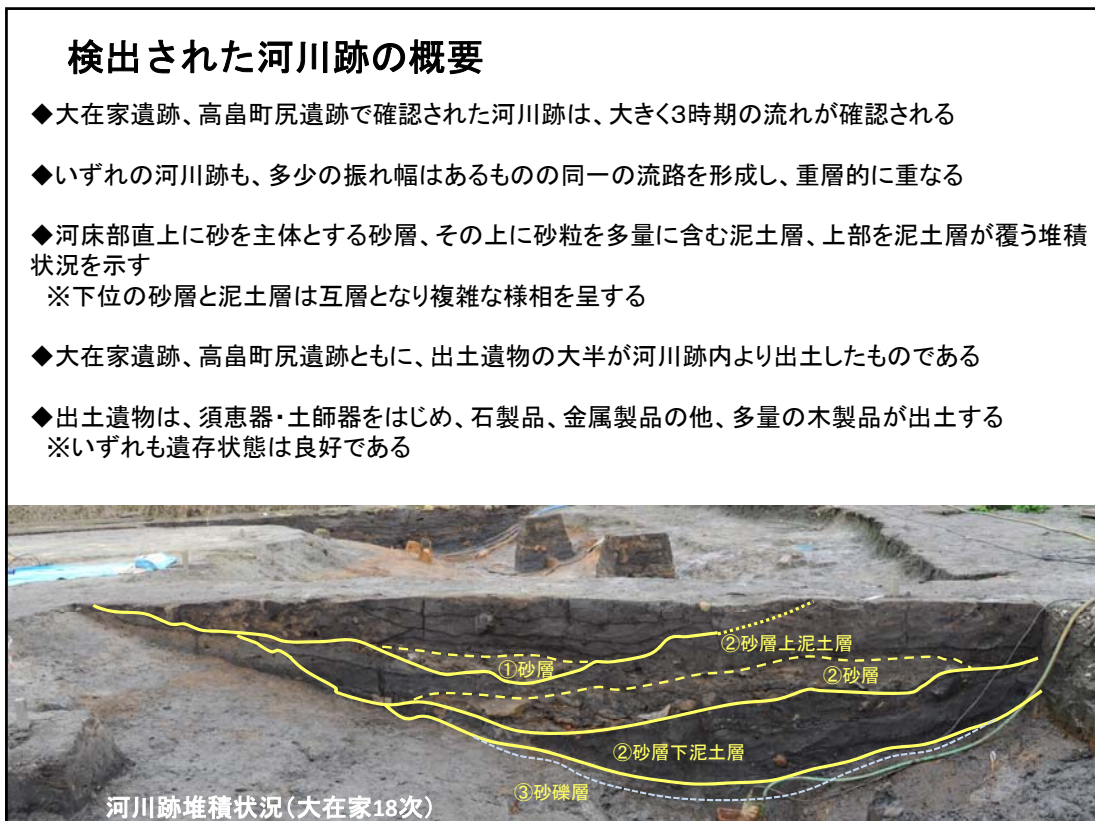
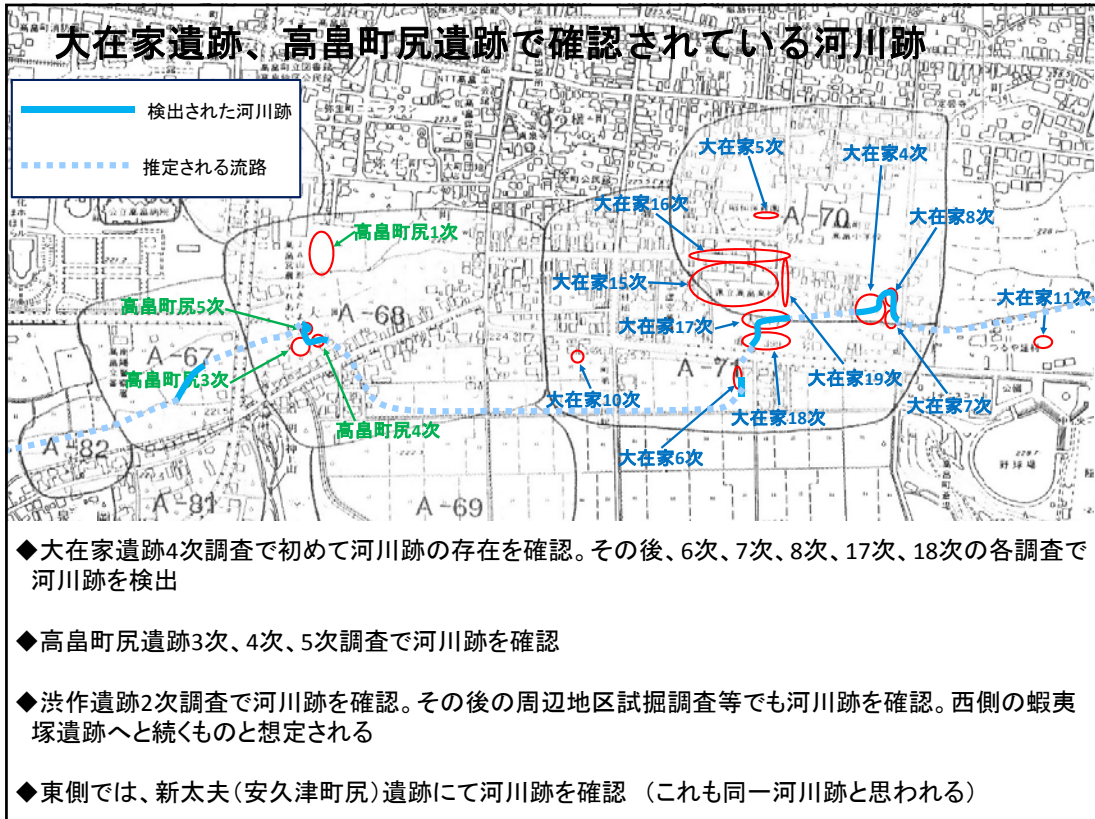


大在家遺跡4次調査風景

高島町尻(タカタマヅリ)遺跡の概要

- ◆高島町の中心部、大在家遺跡の西側に隣接して所在
※南側に日照遺跡、西に渋作遺跡、北西側に不動作遺跡が隣接
- ◆平成10年、宅地造成事業関連の遺跡分布調査により発見
- ◆平成10年より平成16年まで、5次にわたる調査
 - ・遺跡の年代は7世紀後半から9世紀後半
 - ・検出された古代の遺構
 - 掘立柱建物跡3棟(8C後半～末主体か)、井戸跡1基(8C末)
 - 多数の土壌、溝跡、河川跡、ピット等
 ※検出された河川跡は、大在家遺跡で検出された河川と同一河川と考えられ、高島町尻遺跡の西側に隣接する渋作遺跡でも確認されている
 - ・出土した古代の遺物
 - 須恵器・土師器、木製遺物、金属製品、石製品など 多量かつ多様である
- ◆大在家遺跡と極めて類似した遺跡
 - ※西側に隣接する渋作遺跡、南側の日照遺跡、大在家遺跡の東方に所在する新太夫(安久津町尻)遺跡もまた大在家遺跡、高島町尻遺跡とほぼ同時期の遺跡である





発見された遺構＜竪穴住居跡・掘立柱建物跡＞



7世紀後半の竪穴住居跡(大5次)



8世紀前半の竪穴住居跡(大11次)



8世紀後半？の掘立柱建物跡(高1次)



8世紀後半？の建物跡(高1次)

発見された遺構＜土壇・井戸跡＞



7世紀末の土壇(大3次)



8世紀後半の土壇(大15次)



8世紀後半の井戸跡(大10次)



河川内の石組？(高4次)

河川跡の調査と出土遺物（1）



河川跡の調査と出土遺物（2）



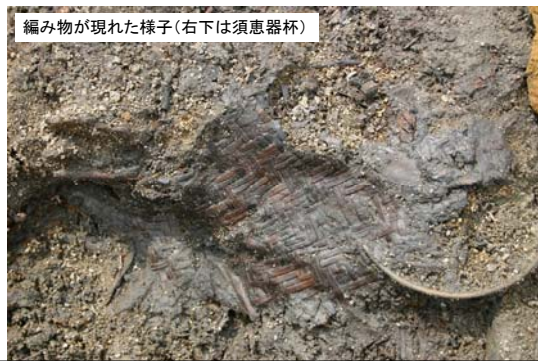
河川跡の調査と出土遺物（3）



河川跡の調査と出土遺物（4）



河川跡の調査と出土遺物（5）



河川跡の調査と出土遺物（6）



河川跡の調査と出土遺物（7）



馬鍬(①砂層:大17次)



田舟(②砂層下:大4次)



田下駄(大18次)



鍬先(鋤先?)未製品(大4次)

河川跡の調査と出土遺物（8）



下駄出土状況(②砂層:大18次)



火切り臼出土状況(②砂層:大18次)



櫛出土状況(②砂層:高5次)



櫛出土状況(②砂層:大17次)

河川跡の調査と出土遺物（9）



河川跡の調査と出土遺物（10）



河川跡の調査と出土遺物 (11)



墨書土器「王」(高4次)



墨書土器「由」(高4次)



墨書土器(大18次)



漆書の須恵器杯(高3次)

河川跡の調査と出土遺物 (12)



墨書のある木製皿「若?」(①砂層:高3次)



陰刻を有する木製皿「百」(大4次)



陰刻を有する木製皿「上」(高4次)



焼印を有する木製皿「上」(大4次)

河川跡の調査と出土遺物（13）



河川跡の調査と出土遺物（14）



河川跡の調査と出土遺物（15）



漆塗木製品(仏器? : 高3次)



漆塗皿(高3次)



漆塗用の刷毛(高3次) ※木部は木簡の再利用 出土例の少ない資料



漆のパレットとして使用された須恵器杯(7末~8初: 大4次)

河川跡の調査と出土遺物（16）



鍬先(鋤先?)出土状況(高3次)



溶着した須恵器杯(高安窯跡?)(大4次)



曲げ物蓋出土状況(②砂層: 高4次)



「桜皮」出土状況(高4次)

河川跡の調査と出土遺物（17）



大在家遺跡・高島町尻遺跡について～河川跡出土遺物を中心に～

- ①大在家遺跡、高島町尻遺跡をはじめとして高島町中心部に集中して所在する遺跡群は、内容的に共通点や類似点が多く、同一の遺跡として捉えることができる。
屋代川の北、東西に延びる山間地の山腹あるいは山麓には古墳群が展開。屋代川の南に(東から)安久津町尻遺跡、大在家遺跡、高島町尻遺跡、日照遺跡、渋作遺跡など、当該期の遺跡が密集して所在。その南の山間地には、高安窯跡、狐崎窯跡の生産遺跡が所在。
屋代川左岸の平地に営まれる住空間を中心に、北に墓域、南に生産遺跡という当該期の土地利用の姿が見えてくる。
- ②大在家遺跡、高島町尻遺跡を中心とする各遺跡は、7世紀末～8世紀前半、8世紀後半～9世紀初にそれぞれの盛期が見られる。
- ③大在家遺跡4次調査で初めて検出された古代の河川跡は、その後の調査により、新太夫遺跡(安久津町尻遺跡)から大在家遺跡、高島町尻遺跡、渋作遺跡、蝦夷塚遺跡へと続くことが確認されている。
- ④確認された河川跡からは、須恵器・土師器、土製品、木製品、金属製品、石製品など多岐にわたる遺物が多量に出土する。遺存状態も良好である。
- ⑤大在家遺跡、高島町尻遺跡を中心に出土する多量の木製遺物は、極めて多様であり、当該期の良好な資料群である。
- ⑥河川跡からは、少量ではあるが木簡が出土し、古代の「租」に係わる出納記録の帳簿状のものや郡家で作成されたとみられる文書木簡など、郡家の事務に係わる木簡群であることがわかった。少なくとも、大在家遺跡、高島町尻遺跡が、置賜郡衙の一部、あるいは強い関わりを持つ遺跡であるといえる。
- ⑦木簡以外にも、多数の墨書土器や墨書や刻書、焼き印等の手法により文字が記される木製品も少なからず出土している。

⑧高島町尻遺跡の西に隣接する渋作遺跡から「神主」「□原寺」の文字を記す墨書土器が出土しているが、高島町尻遺跡では、県内唯一の「瓦塔」片が出土し、柱間7尺～8尺を測る5間×3間の掘立柱建物跡が検出され、当該地区に寺院や神社が存在した可能性を示している。

「瓦塔」片が出土した地点では、特異な形の人形等が出土し、金属器の写しと考えられる須恵器群（特異な形状を示す稜碗や短頸壺など）が多く出土するなど、宗教や呪術に係わる遺物がまとまっている。官衙に関連する寺院等が存在する可能性がある。

⑨帯金具や石帯、巡方、「鏝」、勾玉、円面硯などは、当地方の官人の存在を想起させる特異な遺物である。また、「賽子」なども特殊な遺物といえよう。

⑩木製遺物の中には、未製品も多く含まれる。出土した未製品は、削り物、農具など多様である。また、漆塗り用の刷毛の出土や漆のパレットとして使用された多量の須恵器・土師器の存在などを考慮すると、郡家に関連する木地師や塗師などの工人集団が存在したと解される。

他にも、高安窯跡の製品と見られる溶着した須恵器や焼き台として使用された破片が散見され、高安窯跡との関連も看取できる。高安窯跡に係わる工人集団も近隣に存在した可能性もある。



河川跡より出土した「賽子」(①砂層:大17次)